

八潮市議会議員 あさだ和宏(43歳)無所属(刷新の会・代表)



継続こそ・力なり!!
子育て世代の声を市政へ!!

未来の八潮・子どものために… 和宏のほっとかない!! NEWS vol.45〈12月議会報告〉

編集・発行

あさだ和宏を育てる会
会長 落合 利治
編集長 中井 欣也

〒340-0821 八潮市伊勢野306
FAX 048(996)4361

●発行日 平成24年1月24日●

討議資料

子供に
ツケを
まわさない!



プロフィール

1968年 3月28日
八潮市に生まれる(現在43歳)
市立大瀬小(八小)大原中(二中)を卒業
私立成立学園(商業科)を卒業
01年 (社)八潮青年会議所理事長
(青年会議所の事業を通して、
政治のあり方・教育問題に関心を持つ)
01年 9月市議選に立候補
(最年少候補(当時)33歳)
1229票12位当選
05年 9月
2度目の市議選に立候補(37歳)
1415票9位当選
09年 9月
3度目の市議選に立候補(41歳)
1733票3位当選
現在、3期目(刷新の会)
専修大学 法学部(2部)現在4年生

所属団体

地方政治改革ネット 会員
青年地方議員の会 会員

ホームページ

あさだ和宏

検索

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

昨年は我が国でも大きな災害等が発生し、自然災害の恐ろしさや、人類が開発した技術の「負の側面」が浮き彫りとなった一年でした。また、国内の経済状況も未だ先の見えない不安定な状況が続いています。

この様な状況の中で、本市は鉄道開業を機に人口増加が続いており、前回の国勢調査(05年)との比較値では、人口増加率9.9%となっており、この数値は全国の自治体でも「19番目」(全国809市区では9番目)となっています。現在も駅周辺の開発が進んでおり、この先も人口増加が期待されています。一方、急激な人口増加により、様々な面で行政サービスへの影響が懸念されていることも注視していかなければなりません。一例では、駅周辺にある小学校、中学校の生徒児童数が増加し、普通教室等の不足が生じています。この問題を解決するために昨年、通学区域審議会が開催され、通学区域の見直しが今後実施される方向性となりましたが、抜本的な解決策には至らないと私は感じています。

また、この他に、今後更に増加が見込まれる待機児童の数や、急速に進む高齢社会の到来(老年人口増加率は日本一のスピード)への対応策等、今から考慮しておかなければならない施策が多くあるのも事実です。

勿論、様々な施策を実施するには費用を要します。限られた財源(市の予算)の中で市民が必要としているサービスを提供するには、市の施策に優先順位をつけて実施することが重要ではないかと私は考えます。また、今までのように行政が、「市民サービスを全て賄う」というのではなく、これからは、「地域の力」(人材・資源)を活用して行政経営をする必要があると思います。今年一年も、「既成概念」や「習慣」に捕らわれることなく、常に新しい試みにチャレンジ(挑戦)していきたいと思っています。

2012年も、皆様にとりまして、幸多く、笑顔(笑顔)の多い一年となりますように。

2012年1月

八潮市議会議員 あさだ和宏

平成24年 議会報告会・議員を囲む会のご案内

- 日時 2月25日(土曜日)午後6:30~
- 場所 八潮メセナ 2階(集会室)
- 会費 2,000円(飲食代を含む)
- 定員 100名様

※参加ご希望の方は事前の申込みをお願いします。

連絡先 朝田(議員)まで
090-3402-6388
(非通知では繋がりません)

一般質問

中学校の修学旅行について

Q 市内5校の中学校で実施されている修学旅行の費用が、各学校間で差異が生じています。修学旅行は授業の一環という位置付けである以上、旅行費用の差異は少ないほうが良いと考えますが、各学校の旅行費用はそれぞれいくらか伺います。

A 平成23年度市内各中学校における一人あたりの修学旅行費用は

- ・八潮中学校 55,278円
- ・大原中学校 57,326円
- ・八條中学校 51,050円
- ・八幡中学校 48,322円
- ・潮止中学校 64,682円

※但し、八条中学校は、今年度まだ実施されていないので、予算額。

再質問

Q 過去(平成22年度・平成21年度)の金額はそれぞれいくらか?

	平成21年度	平成22年度
A		
八潮中	56,093円	58,000円
大原中	47,778円	50,521円
八條中	49,961円	51,402円
八幡中	48,911円	51,567円
潮止中	53,222円	61,437円

Q 各学校で差異が生じている要因は何か?

A 基本的な見学コースには大きな違いはないが、移動手段(電車か観光バスか)によつて金額の差異が生じている。また体験学習等を実施するか、しないかで金額が違ってくる。

高3の息子も無事に大学合格しましたーどうやら親子で同じ大学へ…

Q 今後、教育委員会として各学校へ、修学旅行の内容について、ある程度の指針を示す必要があるのでは?

A 今後、開催される校長会の時に、費用を含め議題として取り上げていく。

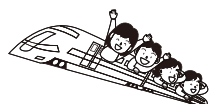
●和宏の意見・考え

最初に申し上げておきますが、私は、修学旅行の費用が高い、だから実施するなという立場ではありません。修学旅行は中学校生活の中で、重要な学校行事の一つだと認識をしていますし、私自身も28年前に行つた修学旅行の楽しい記憶が今も蘇ってきます。

ただ、上記のように、各学校間で金額の差異が大きいのが実情であり、なるべく金額が近いのが望ましい姿だと思えます。今回、質問をするきっかけとなつたのは、ある保護者から私にお寄せいただいた「声」がきっかけとなりました。

質問を行う前に教育委員会を通じて、各学校の費用について詳細なデータを取り寄せて分析しました。すると、費用が高くなる要因を幾つか発見することができたと同時に、ある部分を抑えることによって費用の削減が可能ではと感じました。

毎年実施される修学旅行ですが、実施にあたり基本となるのが昨年、一昨年実施した内容と費用です。また、担当される教職員も通常は一年ごとで交代してしまつて、なかなか、内容、費用面に関して改善することが難しいと思います。だからこそ、修学旅行の内容と費用に関して学校、教育委員会は「妥当性」を検証する必要があると私は考えます。



災害に強い自治体施策について

Q BCP(災害業務継続計画)の作成について

A 自然災害が発生した場合、市は災害応急対策活動や災害からの復旧・復興活動を主体として重要な役割を担う一方、災害時であつても継続しておこなわなければならない通常業務を抱えています。現在の八潮市地域防災計画には、行政側が被災した場合の想定などについて示されていないことから、今後、地域防災計画の見直しと併せて業務継続計画の策定についても検討していく予定です。

●和宏の考え・意見

答弁では、地域防災計画の見直し時に併せて検討するとのことでしたが、再質問の中で、新しい防災計画が策定されるまで約2年を要するとの回答がありました。災害はいつ、何処で発生するか分かりません。であるならば、計画が策定されるまでの間、市が実施する災害・防災訓練等に「業務継続」を主眼に置く訓練を実施するように提言しました。

Q 本市と遠距離自治体間との災害協定締結について

A 新潟県中越地震の経験を踏まえ、新潟県小千谷市が中心となつて設立した「中越大震災ネットワークおちや」(全国64自治体で構成)に平成20年に加入している。これに加入していることによつて遠距離自治体との防災協定同様な効果があると考えている。

再質問

Q 加入していることについて評価はするが、通常どのような人的交流活動を行っているのか?

A 毎年、加入している自治体を対象に研修を実施している。

Q 多くの自治体間でのネットワークを構築することも大切だが、多田市長は「1対1」での遠距離自治体との協定は考えていないのか?

A 今回、遠野市へ救援物資を届けた経緯

があつたが、地震により高速道路等の交通網が寸断され多くの時間を要した。今後、災害協定を締結する際には、この点に考慮すべきではと思う。

●和宏の考え・意見

この質問は、過去にも一度、質問をした内容です。また今回、同様な質問が他の議員からもありましたが、市は「考えていない」という姿勢を貫いていたと感じました。確かにネットワークで協定を締結することも有効な手段の一つだと感じますが、それとは別に「八潮市と〇〇市」(個別)で災害協定を結ぶ必要性があると私は考えます。それによつて、より迅速な救援を受ける(救援をする)ことが可能ではと。

Q 市の避難場所として指定されている場所、備蓄倉庫の設置されていない箇所について

A 避難所は小・中・高等学校17校及び、文化スポーツセンターなどの公共施設8施設、併せて25箇所を指定。そのうち防災倉庫若しくは備蓄物資のない施設は11施設です。

Q そのうち、県立高校(八潮高校・八潮南高校)はどうなっているか?

A 両校とも、防災倉庫・備蓄物資の設置はなし。

今後、他の施設を含め、施設管理者と協議して、災害備蓄品の備蓄場所の確保について検討していく予定です。

●和宏の考え・意見

上記の通り、市の避難場所に指定されていないながらも、災害備蓄品の設置がない箇所が約4割となっています。確かに市内にある他の備蓄倉庫から運ぶ事も可能ですが、災害発生時の混乱した状態でそれが可能か、といえは疑問に感じます。(現に3月の東日本大震災後、市内に設置された避難所の設営、運営は手際が良いとは感じませんでした)

であるならば、どの避難場所にも、一定量の備蓄品を備えておくことが大切だと感

じます。特に県立高校には、合宿所や食堂も併設されており避難場所としての機能は高いと考えます。(余談ですが、何故?今まで設置されなかったのでしょうか?これも縦割り行政(県と市)の弊害か...)早急に施設管理者との協議をするように要望しました。

Q 新たな民間企業との災害時の協力協定について

A 現在、フジパンなど14団体の企業、団体と協定を締結している。また、現在、避難所で使用する段ボール製簡易ベッドの供給に関する協定の締結について協議中。

●和宏の考え・意見

再質問の中で提案させていただきましたが、本市は市内に多くの倉庫が点在しており、その中には大手企業(食品関連)の流通センター等も稼働しています。私はこの点に着目し、その企業との協定を結ぶことによって、より実効性の高い、迅速性のある協定になると考えています。正しく「地の利」を活かした施策だと思えます。今後、どのような企業があるのか、調査するように要望しました。

まちづくり施策について

Q 八潮高校・西側エリア(調整区域)について、本市の貴重な空間であると考えますが、今後、この地域のあり方を検討することについて市の考えを伺います。

A 現在、この地域について、家庭菜園などの畑としての利用が多く見られるとともに一部に田んぼが残っている状況であり、北側には市民農園が開設されているなど、本市の貴重な緑地空間となっているエリアです。

八潮市都市計画マスタープランでは、この地域は「田園都市ゾーン」として位置づけられているとともに、市民に「やすらぎ

うるおい」を与える緑の拠点構想に位置づけられている。

Q 現在このエリアの土地利用(私有地)で、市として懸念している利用方法があるとするようなケースか?

A 最近では、一部で駐車場としての土地利用や、未利用地が見受けられるなど土地利用が変化している。

Q 今後、この地域のあり方を含めた勉強会(ワークショップ等)を、地権者を中心に開催する必要があると思うが?

A そのようなお話が地権者側から行政へあった場合、行政としても積極的に協力をしていきたい。

●和宏の考え・意見

このような私有地が主体の地域開発は、地権者側の思惑も多種多様であり、どのような地域にするのか課題が多いのが実情です。だからこそ、行政側からも、より市の計画と歩調を合わせるように「誘導」をすることが重要だと思います。今後、勉強会の開催等があった場合、積極的に協力をするように要望しました。

※紙面の関係上、質問・答弁を抜粋、要約して掲載しています。詳細は八潮市議会ホームページ「会議録検索」で登壇した全て



◎議会報告会の報告

さる11月26日(土曜日)、恒例の議会報告会・意見交換会を開催しました。

当日は、週末の夜にも関わらず、28名の皆さんにお越しいただきました。

前半は9月議会の報告、そして後半は、宮城県・岩手県へ、復興ボランティア(議員自ら5回)に参加した時の状況を話しました。その後、参加されていた方から、南部地区への移転が予定されている「病院」の建設について等、多くの質問や提案がありました。

選挙間近になると「にわか報告会」を開催する議員も多いですが、定期的に「報告会」開催するからこそ、開催の意義があると私たちは感じています。

次回の開催は、2月25日(土曜日)八潮メセナで開催します。多くの皆さんのご参加をお待ちしております。

報告 浅古



心理学研究の世界に、フィールドワークという手法がある。これは、研究者自身を観察したい集団の二員におくことで、感覚や体験を通じフィールド全体の理解を目指す調査観察方法である。これを地方自治研究にも取り入れてみようと考え、私は八潮市議会を傍聴に訪れた。

意外だ。議会へ入場した時の第一印象である。明るい照明の下で、熱心に質問をする議員と、冷静にしっかりと応答をする市職員のやりとりが繰り広げられていた。また、傍聴に訪れる人も多く、自ら挨拶に来る議員もいた。

もう一つ意外に感じたことがある。議会終了後に案内して頂いた議場から見る傍聴席は、とても遠くにあると感じた。傍聴席で感じた距離の近さは何だったのだろうか。こうした距離感の格差も、近年話題となっている自治体と住民の隔絶化を生む一因ではないかと思う。

選挙権を行使することだけが有権者の役割ではない。本や画面に留まることなく、実際に現場へ赴き五感で知り、自ら票を投じた議員を監視することも有権者に課された一つの責務ではないだろうか。

専修大学法学部
法律学科3年

野沢研太



住民投票条例が可決しました。

今議会において、「八潮市住民投票条例」が全会一致で可決しました。この条例によって、市政に係る重要な事項について、住民の意思を反映するために住民投票を実施することが可能になりました。仮に住民投票が実施された場合、結果については、先に制定された「八潮市自治基本条例」の規定に基づき「尊重する」ことになっています。

本市では、今まで市を二分するような政策の論争はありませんでしたが、今後、「市議会の意思」と「住民の意思」が大きく食い違うケースが発生した場合、住民投票が実施されるケースも予想されます。私自身も、より市民の皆さんから身近な議会、議員となるように努力してまいります。

4月から市役所駅前出張所でパスポート取得が可能になります。

市民の皆さんには今まで、パスポートを取得する際に、市外へ足を運ばなければならずご不便をお掛けしていましたが、4月より県からパスポート発給業務の権限が移譲され、八潮駅前・市役所出張所での取得が可能となりました。（詳しくは今後、市の広報誌・ホームページをご参照下さい）

★編集後記★

～きんやのボヤキ～



明けましておめでとございます。二十四節季の一つ、「大寒」が過ぎ一段と寒くなりました。まだ寒い日が続きますのでどうぞ、ご自愛いただきたいと思います。

さて、昨年一年間、政治・経済の新聞項目を見ても、寒い内容しか書かれていないような気がします。

でも、いつまでも「寒い・寒い」と言っているのも何も変化は起こらないと思います。

本市も、次の選挙（市長選・市議選）まで一年半余りとなりました。

課題を解決できない「動かない政治」をするのではなく、真剣に取り組み、打開策の接点を探るように求めている「行動」してもらいたいものです。

今年は朝田議員を含め、責任のある判断を求めます。それは、政治に携わる人は、社会に対する責任を問題にするのであれば、その判断による結果が社会に対して大きな影響を与えるのですから、責任を明確にさせないといけません。

課題を先送りする、そんな政治を続けている余裕はないのですから、政治家自身、厳しい自省と、将来像を示す取り組みを私たちは求めています。

今年一年、共に頑張りましょう！

きんや

和宏の独り言… ～節目の一年～

皆さん、こんにちは。2012年がスタートし、早1ヶ月が経過しようとしています、お変わりありませんか。今年の干支は「辰」12支の中で、唯一「架空」の動物です。また「辰」の語源を調べてみると、「草木が盛んに成長し形が整った状態を表す」と解釈されています。閉塞感が多い社会情勢ですが、何事も「プラス思考」で、飛躍・成長をする一年にしましょう。

さて、今年は世界的に見ても、アメリカの大統領選挙（11月予定）を始め、大きな「政治」の動きがある可能性があります。国内でも、恐らく今年は衆議院の解散総選挙が行われる可能性が高く、国内の政治も政権運営を含め大きく変化する可能性を秘めている「節目の一年」になると思います。

本市においても、市制施行40年という節目の年となり、八潮市の5年後、10年後の将来を見据えた施策を進める重要な一年となると感じています。

私自身も、40歳を機にチャレンジした「大学」も、この4月に無事に卒業することが出来ると思います。

（この45号が発行された時は後期試験の真っ最中ですが・・・）

当然のことですが、大学を卒業することは「目的」ではなく、新たな成長へのステップへの一つ「手段」だと私は思います。大学卒業後、これからの自分自身の方向性・進路を含め、今年一年は私自身にとっても大きな「節目の一年」になると感じています。

今年も、自分の持っている力を精一杯出して、市民の皆さんから必要とされる「人材」となれるように、努力を続けて参りますので、ご支援、ご指導を宜しくお願いいたします。

和宏

